

の構築を進めます。また、児童一人につき1台のパソコンを導入するための準備も進めています。

浜岡中学校改築事業については、県内最先端のICT環境を整え、これを機に市内ICT教育実践モデル校として、新たな学習形態構築へチャレンジし、他の小・中学校への波及を目指します。

人が集まるにぎわい空間の創出

昨年は、客船「ばしふいっくびいなす」が初寄港し、念願だった御前崎港への客船誘致の第一歩が踏み出されました。令和3年には御前崎港が開港50周年を迎えます。さらなるにぎわいづくりに向け、引き続き大型客船寄港の準備を進めるとともに、マリンスポーツなど体験型観光の充実を図ります。

食と健康のまちづくりの推進

昨年、つゆひかり、生かっお、アローマメロン、遠州夢咲牛、クエを御前崎ブランドとして認定しました。今後本市の魅力ある特産品などを

ブランド認定し、認知度向上と地域活性化や販路、消費拡大につなげていきます。

また、昨年より南駿河湾漁協ではブランド化した「波乗りサワラ」を売り出しています。今後、市も連携して地域水産物などを活用した支援事業に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

地域医療の体制づくりを進めるため「診療所等開設資金支援事業」、「医療機器整備支援事業」を継続します。

平成18年度から常勤医師が不在だった市立御前崎総合病院の整形外科。浜松医科大学に何度も医師派遣を要請した結果、4月から3人の常勤医師を派遣してもらえることになりました。リウマチの手術にも対応できるようになり、リウマチセンターとしての機能も充実させることができそうです。今後も医療ニーズに対応できるように努めるとともに、地域医療を支え、信頼される病院を目指してまいります。

スマート自治体への取り組み

市民の利便性を高める情報化への環境を整備するため、

市では令和2年度末までにマイナンバーカードの取得率50%を目標にしています。2月に増設した端末を稼働させて取得促進を図り、個人認証基盤を利用した電子申請を進めます。また、各種証明書発行手数料などの支払いに関する「電子決済サービス」の導入を研究してまいります。

産業を活性化させる

2月議会定例会のなかで、中小企業と小規模企業の振興条例を制定しました。企業の方々と連携や協力、支援をしながら意欲ある中小企業・小規模企業の成長や持続的発展を図り、市内経済を活性化させていきます。

一次産業は、後継者不足が課題です。新規就労者の確保や育成についても様々な施策を講じていきます。

新型コロナウイルスに対する取り組み

4月7日と16日に首相から段階的に緊急事態宣言が発令されました。本市でも4月22日に感染者が確認され、市民の皆さまにおかれましては、

不安な生活を送られていることと思います。市では現在、静岡県と連携を図り、的確な情報収集に努めております。今後も「密閉」「密集」「密接」の回避、不要不急の外出を控えるなど、自覚や危機感をもって冷静に行動していただきたいと思えます。また、憶測や不確かな情報により、人を傷つけることのないよう、思いやる気持ちを持っていただきたいと思います。

感染拡大防止措置として、「食事提供施設」と「宿泊施設」に4月25日から5月6日の間、休業してもらう苦渋の要請をしました。協力事業者には、協力金として30万円を支給させていただきます。

事業者の皆さんは期間前から大打撃を受けており、市では少しでも支援になればと「DEMAEZAKI」という応援サイトを立ち上げています。サイトでは、宅配やテークアウトサービスをしている事業者を紹介しています。市民の皆さんには、ぜひ利用してもらいたいと思います。事業者も随時募集しておりますので、商工観光課へお問い合わせください。

中小企業や小規模事業者、観光業者の借り入れに対しては全額利子補給したいと考えています。既に4月の臨時会で議決をいただいております。1億円の補正予算を組んで支援してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大防止による家計への支援として、国から「特別定額給付金(10万円)」が支給されます。現在、急ピッチで申請・支給体制を構築しており、5月18日(月)に申請書類を発送させていただきます。予定です。

産業廃棄物処理施設の建設は認めない

昨年12月8日に実施された住民投票の結果を受け、1月10日に事業者の社長と面会し計画を断念するよう、強く要請しました。

市民の皆さんが反対する事業は認めるわけにはいきません。最終権限を持つ県知事も、住民との合意形成ができていない事業は認めないというスタンスであり、今後も県と共通認識のもと硬骨漢たる姿勢で対応してまいります。

(内容は、4月27日時点のものです)